



# 清泉女子大学発展協力会 活動のご報告

2024年6月

会長挨拶

清泉女子大学発展協力会会長 百武 彰吾

平素より格別のご支援とご厚情を賜り、誠にありがとうございます。清泉女子大学は、学び舎としての理念「まことの知・まことの愛ー広く学び、深く考える 人のために、人とともにー」を追求し、その実現に努めてまいりました。創立から75周年という節目の年である2025年4月、学校法人清泉女子大学と学校法人清泉女学院は、法人合併いたします。これは私たちにとって、創立100周年に向けた新たなステージへの一歩です。

昨年度に引き続き、私たちのミッションは「グローバル人材育成支援」を始めとする様々な支援を通じて、学生一人ひとりが真の学びを実践し、社会に貢献できる人材を育成することです。特に、激動のAI時代を生き抜く力を身に付けるため、自ら考え、行動できる学生の育成に力を入れます。

それと同時に、在学生だけでなく、卒業生との絆をさらに深めていくことも重要です。そのために、麗泉会を通じた活動の支援を強化し、卒業生一人ひとりが持続的に関わり続けられるような環境を整えたいと思います。また、将来、本学の学生となる高校生やその保護者、さらには一般の方々とも積極的に関わり、清泉の建学の精神を共有しながら、皆様と共に成長できる関係を築いていきたいと考えています。

2023年度も多くのご支援をいただき、その恩恵により学生たちは、教室内にとどまらない多岐にわたる場所で学びを深め、挑戦する機会を得ることができました。これは皆様からの温かいご支援があつてこそです。学生たちが参加するプロジェクトやボランティア活動においても、皆様のご寄付が直接的な支援となり、価値ある経験を提供しています。

本学としても、これからの新たなステージに向けて、あらゆる関係者と一層の連携を深め、相互の成長と発展を遂げることをお約束します。創立100周年に向けて、更なる発展を遂げるための準備を進めてまいります。

最後に、清泉女子大学発展協力会への変わらぬご支援とご厚情に心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## 2023年度 寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2023年度は537件、703万449円のご寄付をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、次頁のとおり学生の活動支援等のために役立てさせていただきました。①では、留学準備講座の受講料やTOEFL ITP、DELE、IELTSの受講料の補助などを行いました。②では、韓国でのヴィーガンの浸透状況の調査、フィールドワーク先のモロッコでの国外移民の現状調査活動に対して2名の学生に、また廃棄予定の亚克力パーテーションを回収し、アップサイクルをして学園祭で販売する活動に対して6名の学生に支援を行いました。③では、3年次生の成績優秀者に対して、10万円ずつ奨学金を授与しました。④では、オープンキャンパス運営補助や留学生支援などを行うキャンパスキャストに対して、謝礼の図書カードを配布しました。⑤では在学生に対するラファエラ・アカデミアの受講料補助を行いました。⑦では、当会の寄付金を原資として7講座を開講しました。（次頁に続く）

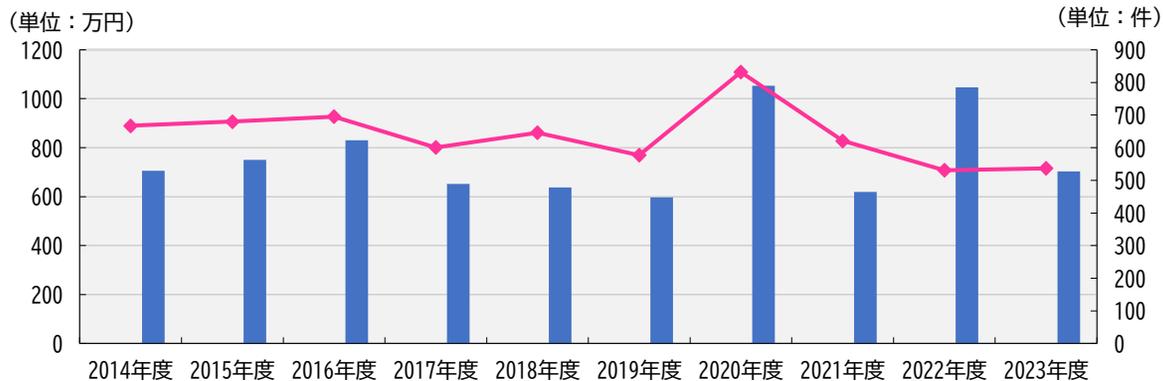
## 2023年度 寄付金の使途

①グローバル人材育成支援プログラム（93名）	857,600円
②チャレンジ支援奨学金（3件8名）	192,831円
③発展協力会学業奨励奨学金（10名）	1,000,000円
④キャンパスキャスト等への支援	1,050,000円
⑤ボランティア支援プログラム	0円
⑥ラファエラ・アカデミア受講サポートプログラム（延べ87名）	114,000円
⑦発展協力会寄付講座（7講座）	200,255円
⑧国際交流基金への組入れ	3,615,763円

## 2023年度 寄付金明細表（2023年4月1日～2024年3月31日）

個人会員								法人会員		計	
(1)本学に在籍した者		(2)本学に在籍した者の父母及び家族		(3)本学現旧教職員		(4)一般の有志					
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
495	4,287,269	15	477,200	18	1,865,900	9	400,080	0	0	537	7,030,449

## 年度別寄付金額(棒線グラフ)と寄付件数(折れ線グラフ)



## 2024年度 寄付金の使途予定

寄付金の目標額を700万円に設定し、皆様からいただくご寄付については、下記の使途を予定しております。今年度は、学生の学修状況や相談内容を一元管理し、履修指導に活用するシステムの導入費用にも一部充当させていただきます。なお、支出実績が予算を下回った場合は、当会の趣旨に基づき、大学の財政基盤強化に寄与するため、国際交流基金に充当させていただく予定です。

皆様からのご寄付は、学生支援や教育・研究活動の充実のための資金として、有効に活用させていただきます。何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

## 2024年度 寄付金の使途予定

①グローバル人材育成支援プログラム	100万円
②チャレンジ支援奨学金（ボランティア活動も対象）	100万円
③発展協力会学業奨励奨学金	30万円
④キャンパスキャスト等への支援	105万円
⑤学修ポートフォリオの導入	210万円
⑥教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動	55万円



環境学生団体 Econista 4年 窪田 夏菜美さん 3年 五十嵐 稀南さん  
2年 太田 羽奈乃さん 2年 小幡 和加さん 2年 木下 佳奈さん 他1名

## —奨学金の支給対象となった活動内容について教えてください。

廃棄予定の飛沫防止用パネル（アクリルパーテーション）からアクセサリを製作して販売しました。アクリルパーテーションの引取りから、商品開発、アップサイクル後の商品製作、販売体験まで実際に行い、学生が主体となってもものづくりに関わりました。廃材に付加価値をつけてアップサイクルをする活動を通じて、三度のイベント出店のほか、子ども向けの環境教育プログラムの開催や海岸清掃も行いました。産官学が連携した、ごみを出さない循環型社会を目指しています。2024年に品川区の環境保全活動顕彰地域大賞と清泉女子大学の学長賞を受賞しました。

## —活動を終え、今どのように感じていますか。

品川区や区内外の企業と連携しながら、アップサイクル品の製作から販売までを学生主体で行い、様々なステークホルダーと連携をすることでプロジェクトを進めることができましたと感じています。また、可能性や活動範囲が広がり、老若男女問わず幅広い世代の方々にアップサイクルを知っていただく機会が増え、環境啓発ができたと感じています。SDGs17の目標にあるパートナーシップの強化を意識したことで、弊団体のミッションである「端材や廃材を自分たちの手でレスキューし、アップサイクルしたものを老若男女問わず多くの人に届ける」が実現できたと感じています。

## —この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

この活動を通して、学生生活ではなかなか経験することができない、生産から販売までのものづくり工程を体験し、それにかかわる労力や経費の計算まで学ぶことができました。環境配慮型のものづくりの難しさも知りましたが、活動を通して繋がった多くの学生や、企業、地域自治体と連携して、今後もアップサイクルを多くの人に知ってもらえるよう、引き続き出店販売やワークショップ開催に力をいれていきたいと考えています。

## —チャレンジ支援奨学金をめざす学生の皆さんへ、メッセージやエールがあれば聞かせてください。

プロジェクトを立ち上げた当初は活動費がなく、やりたいことがあっても金銭的に実現が難しいという課題がありました。チャレンジ支援奨学金をいただき、活動の幅を着実に広げることができました。何か挑戦したい、やってみたいことがある方はぜひチャレンジしてみてください！ 「挑戦」には勇気と行動力が必要ですが、挑戦した経験は、失敗も成功も全て自分にとって将来の糧になります。皆さんのチャレンジを応援しています！！



2024年2月、品川区の環境保全活動顕彰地域大賞授賞式の様子。（写真中央は森澤恭子品川区長、写真左が旧代表の窪田さん、右が新代表の太田さん）



清泉祭にて開催したアクセサリ作りワークショップの様子。学生や地域の方々に、実際にアップサイクルを体験してもらいました。



清泉祭出店時の様子。アクリル素材の透明なアクセサリに、廃材のネイル・染料・箔を使ってデザインを施して販売しました。

回収したアクリルパーテーションから製作したアクセサリ





## 日本語日本文学科 4年 稲垣 律乃さん

### — どのような学生生活を送っていますか。 —

日本語学のゼミに所属し、学びを深めています。現在は卒論に向けて研究対象を吟味しているところです。難しい部分も多いですが、指導教員の田和教授に助けをいただきながら自分なりに進めているところです。

また、2年次から司書課程と学芸員課程を履修しています。絶対に司書や学芸員になりたいという訳ではなく、何か資格を取っておこうという理由からでしたが、授業をいくつも受けていく中で興味が生まれ、図書館や博物館に行くことが好きになりました。学内のクラブにも所属し、アルバイトと両立させながら、自分に合ったペースで活動を行っています。勉強の合間にスタジオに行って楽器を練習するのが良い息抜きになっています。

### — 課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。 —

「ザ☆バンド」という軽音楽のクラブで活動をしています。去年は部長を務め、コロナ禍でここ数年行われていなかった新入生歓迎会や合宿を再開し、コロナ禍以前の活動に近づけることに尽力しました。さらに去年は文化会の会長を務め、特に個別相談会やクラブ体験会など、新入生の勧誘に力を注ぎました。そのおかげもあり、昨年だけで部員が10人以上増えました。

クラブは週に一度の定例会と、清泉祭やガーデンパーティーといった行事での演奏が活動のメインで、それぞれのバンドがイベントに向けて日々練習を重ねています。観てくださる方を楽しませることができるよう、部員一同も楽しみながら活動をしています。

いよいよ最高学年となり、活動のリミットも迫ってきましたので、今まで以上に一つひとつの活動を大切にしたいと思っています。また、今後もクラブが続いていくように、今できる活動に全力を注ぎ、一人ではなく全員で輝くことができるように活動をしていきたいです。

### — 奨学金をどのように活用したいと考えていますか。 —

発展協会からいただいたご支援は、日本漢字能力検定や日本語検定などの参考書代として活用させていただきます。入学して日本語学を学ぶうちに、私たちが普段使っている日本語でも知らないことがたくさんあることに気付き、学びたいという意欲が強くなりました。いただいたご支援でより学びを深め、これからも学習を続けていきたいです。

### — 後輩たちへ向けてアドバイスやエールがあれば聞かせてください。 —

勉強、クラブ・サークル、アルバイトと、やりたいことがたくさんある人も、そうではない人もいると思いますが、おそらく人生最後の学生生活だと思いますので、悔いのないように過ごしてほしいと思います。困ったときでも、大学内には頼れる人がたくさんいるので心配はいりません。

クラブ・サークルや委員会などの課外活動では、活動そのものもちろん大事ですが、何よりもクラブ・サークルなどに入ることで縦や横の繋がりができ、かけがえのない居場所が生まれます。課外活動に参加したことのない人は、今からでも遅くありませんので、少しでも興味があったら、迷わず飛び込んでみてほしいと思います。

在学生の皆さんが素敵な学生生活を送ることを願っています。



3月に行われた先輩方の卒業ライブでの一枚。(左端が稲垣さん)



4月21日ガーデンパーティーでの集合写真。(前列左端が稲垣さん)

